

近畿地方の万葉集と風景画シリーズ（第一回）

じよめい

かぐやまくにみ

## 「舒明天皇の香具山国見歌」

たけち

・高市の岡本の宮に天の下知らしめす天皇の代

おきながたらしひひろぬかのすめらみこと

息長足日広額天皇

かぐやま

△天皇、香具山に登りて望国したまふ時の御製歌▽

くにみ

やまと

むらやま

大和には 群山あれど とりよろふ

あめ

天の香具山 登り立ち 国見をすれば

くにみ

くにはら

けぶり

国原は 煙立ち立つ 海原は

うなはら

かまめ

鷗立ち立つ うまし国ぞ

あきづしま

蜻蛉島

大和の国は

卷一—2

### （解説）

（1）この歌の標目に記されている「高市の岡本の宮」は第三十四代・舒明天皇（六二九—六四一）が営んだ皇居でその宮跡は奈良県の中央部付近に位置する村、明日香村岡で発掘された遺構と推定されている。

（2）この「香具山国見歌」は万葉の夜明けを迎える時代の天皇、舒明天

皇の実質的には萬葉卷頭歌ともいわれる同天皇が詠まれた「御製歌」おのみうたである<sup>1</sup>と伝えられる。

(3) なお、この舒明天皇の「御製歌」は題詞には「天皇 香具山に登りて望国(くにみ)し給う時の歌」となっているところから、奈良盆地中央(奈良県橿原市)にぽっかりと浮かぶように並んでいる大和三山(香具山・畝傍山・耳成山)の一つ天上の山が地上に降りて来たとの 伝説があるところから頭に「天」が付き「天の香具山」と呼ばれ、神聖な山としてあがめられ続けてきたであろうとの説がある。香具山に舒明天皇が登って国見をなさって詠まれた御歌であるとされる。

(4) 「国見」は佐々木信綱著・万葉辞典には高台にのぼり、国の形勢民の貧富などをみることにある。もと春秋に五穀豊穰を願い祝う儀礼。なお、「大和」は今の奈良県に相当する大和の国を指す。

「あきづ島」は大和の国の枕詞。

(歌意) 大和にはたくさんの山々があるけれど、なかでもとりわけ立派な天の香具山よ、この山の頂に立ち、大和の国を見渡せば広い平野には食事の支度をしているかまどの煙があちこちに、しきりに立ちのぼり。池の広々とした水面には鷗が盛んに飛び交っている。ほんとうによい国だあきづ島、大和の国は。

(参考文献) 澤瀉久孝著「万葉集注釈」新潮日本「万葉集」佐々木信綱「万葉辞典」他



(写生地) 香具山の中腹から北東前方に大和三山の一つ「耳成山」みみなしやまを、また、手前には奈良県橿原市(大和国)の街並み風景を描く。(池田杏花)